(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)特許出願公開番号
特開2019-127464
(P2019-127464A)
(43)公開日　令和1年8月1日(2019.8.1)

(51)Int.Cl.		F I		テーマコード（参考）
A61K 8/86	(2006.01)	A61K	8/86	4C083
A61K 8/49	(2006.01)	A61K	8/49	
A61Q 19/00	(2006.01)	A61Q	19/00	
A61K 8/81	(2006.01)	A61K	8/81	

審査請求 未請求　請求項の数 3　ＯＬ　（全 9 頁）

(21)出願番号　特願2018-10827(P2018-10827)
(22)出願日　平成30年1月25日(2018.1.25)

(71)出願人　592262543
日本メナード化粧品株式会社
愛知県名古屋市西区鳥見町２丁目１３０番地
(72)発明者　原田　みづ帆
名古屋市西区鳥見町２－７　日本メナード化粧品株式会社　総合研究所内

Ｆターム(参考)　4C083 AC022 AC102 AC122 AC132 AC352 AC402 AC432 AC441 AC442 AC582 AC851 AC852 AD042 AD091 AD092 AD112 AD201 AD202 AD332 AD352 BB04 BB33 CC02 CC04 DD01 DD23 DD27 EE06 EE12

(54)【発明の名称】透明または半透明液状化粧料

(57)【要約】
【課題】従来、透明または半透明液状化粧料は油分を多量に配合できないため、しっとり感を向上させるために水溶性高分子や多価アルコールが配合されてきたが、水溶性高分子を多量に配合すると肌なじみが悪くなり、また多価アルコールを多量に配合するとべたつきが生じるといった問題があった。そのため、十分なしっとり感を与えつつ、肌なじみが良くべたつきの無い商品の開発が必要であった。
【解決手段】
エクトイン、ポリオキシアルキレンアルキルグルコシド、ポリアクリル酸塩を含有することを特徴とする透明または半透明液状化粧料であり、肌なじみが良く、且つべたつきの無いしっとり感が長時間持続する透明または半透明液状化粧料。
【選択図】なし

【特許請求の範囲】
【請求項１】
次の成分（ａ）～（ｃ）
（ａ）エクトイン
（ｂ）ポリオキシアルキレンアルキルグルコシド
（ｃ）ポリアクリル酸Ｎａ
を含有し、且つ油性成分の含有量が１．０重量％以下であることを特徴とする透明または半透明液状化粧料。
【請求項２】
前記成分（ｂ）としてポリオキシエチレンメチルグルコシド（２０Ｅ.Ｏ.）を含有することを特徴とする請求項１記載の透明または半透明液状化粧料。
【請求項３】
１．０重量％以下の成分（ｄ）ラウリン酸スクロースを含有することを特徴とする請求項１又は２記載の透明または半透明液状化粧料。

【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、肌なじみが良く、且つべたつきの無いしっとり感が長時間持続する透明または半透明液状化粧料に関する。
【背景技術】
【０００２】
透明または半透明液状化粧料は、油分を多量に配合できないので、しっとり感を持続させることが難しかった。そのため、従来、しっとり感を向上させるためには水溶性高分子や多価アルコールが配合されてきた。
【０００３】
しかしながら、水溶性高分子や多価アルコールが少量では十分なしっとり感を得ることができないが、水溶性高分子を多量に配合すると肌なじみが悪くなり、また多価アルコールを多量に配合するとべたつきが生じるといった問題があった。そのため、肌なじみが良くべたつきがない使用感でありながら、しっとり感を翌朝まで持続させる透明または半透明液状化粧料を開発することは困難であった。しっとり感とべたつき感は類似している感覚ではあるが、しっとり感は好まれ、べたつき感は嫌われる場合が多い。そのため、十分なしっとり感を与えつつ、肌なじみが良くべたつきの無い商品の開発が必要であった。
【０００４】
これまでに、ポリオキシエチレン・ポリオキシプロピレンランダム共重合体ジアルキルエーテルを含有することを特徴とする透明液状化粧料（特許文献１）、シリコーン系界面活性剤と、ジポリオキシエチレン（２）アルキルエーテルリン酸とを含有することを特徴とする透明液状化粧料（特許文献２）、ヒアルロン酸と１，２－ペンタンジオール、ポリグリセリン、ポリオキシプロピレンジグリセリルエーテルの群より選択された少なくとも一種とを含有することを特徴とする透明液状化粧料（特許文献３）が開発されている。しかしながら、これらの従来技術をもってしても、べたつきを十分に抑え、しっとり感を翌朝まで持続させるには至っていない。一方、エクトインはアミノ酸の一種で、皮膚に対する保護効果を発揮することが知られているが、単独では満足するしっとり感を翌朝まで持続させることは出来なかった。
【先行技術文献】
【特許文献】
【０００５】

【特許文献１】特開２０１４－６２０５６号公報
【特許文献２】特開２００６－３１５９７４号公報
【特許文献３】特開２０００－３４４６５６号公報
【発明の概要】
【発明が解決しようとする課題】
【０００６】
本発明は、肌なじみが良く、且つべたつきの無いしっとり感が長時間持続する透明または半透明液状化粧料を提供することを課題とする。
【課題を解決するための手段】
【０００７】
かかる事情に鑑み、本発明は鋭意研究の結果、（ａ）、（ｂ）および（ｃ）を組み合わせることで、肌なじみが良く、且つべたつきの無いしっとり感が長時間持続する透明または半透明液状化粧料が得られることを見出し、本発明を完成するに至った。
即ち、本発明は、次の成分（ａ）～（ｃ）
（ａ）エクトイン
（ｂ）ポリオキシアルキレンアルキルグルコシド
（ｃ）ポリアクリル酸塩
を含有し、且つ油性成分の含有量が１.０重量％以下であることを特徴とする透明または半透明の液状化粧料を提供するものである。
【０００８】
また、本発明は、（ｂ）としてポリオキシエチレンメチルグルコシド（２０Ｅ.Ｏ.）を含有することを特徴とする透明または半透明液状化粧料を提供するものである。
【０００９】
また、成分（ｄ）ラウリン酸スクロースを含有することを特徴とする透明または半透明液状化粧料を提供するものである。
【発明の効果】
【００１０】
本発明の透明または半透明液状化粧料は、肌なじみが良く、且つべたつきの無いしっとり感が長時間持続する透明または半透明液状化粧料である。
【００１１】
本発明における透明または半透明液状化粧料とは、島津製作所製の分光光度計（ＵＶ－１６０Ａ）を用いて波長７００ｎｍの光の透過率を厚さ１０ｍｍの石英セルで測定し、透過率が９５．０％～１００％のものを指す。ただし、ここでは水の透過率を１００％とする。
【００１２】
また、本発明の透明または半透明液状化粧料は、夜使用したときに翌朝までしっとり感を持続させることを目指したものであり、本発明における長時間とは、塗布から翌朝までの時間を想定した８時間のことを指す。
【発明を実施するための形態】
【００１３】
本発明の（ａ）エクトインはアミノ酸の一種であり、外部からの刺激に対して、皮膚を守る働きを持つことが知られている。市販のものとしては、例えばＲｏｎａＣａｒｅ　Ｅｃｔｏｉｎ（メルク株式会社製）が挙げられる。
【００１４】
（ａ）エクトインの含有量は特に限定されないが、透明または半透明液状化粧料に対して０.００５～０．５重量％が好ましく、０．０３～０．３重量％が特に好ましい。これらの範囲において、肌なじみが良く、べたつきを抑える効果が十分に得られる。
【００１５】
本発明に用いられる（ｂ）ポリオキシアルキレンアルキルグルコシドは、特に限定されないが、例えばポリオキシエチレンメチルグルコシド（１０Ｅ.Ｏ.）、ポリオキシエチレン

メチルグルコシド（２０Ｅ.Ｏ.）、ポリオキシプロピレンメチルグルコシド（１０Ｐ.Ｏ.）等が挙げられ、ポリオキシエチレンメチルグルコシド（２０Ｅ.Ｏ.）がより好ましい。これらのポリオキシアルキレンアルキルグルコシドは、単独で使用しても良いし、２種類以上を併用して使用することもできる。

【００１６】

（ｂ）ポリオキシアルキレンアルキルグルコシドの含有量は特に限定されないが、透明または半透明液状化粧料に対して１０．０～３０．０重量％が好ましい。この範囲において、塗布後のべたつきを感じることなく、肌のしっとり感を翌朝まで持続させる効果が十分に得られる。

【００１７】

本発明に用いられる成分（ｃ）ポリアクリル酸塩の含有量は特に限定されないが、透明または半透明液状化粧料に対して０．００５～０．５重量％が好ましく、０．０１～０．３重量％がより好ましい。これらの範囲において、塗布後のしっとり感を持続させる効果が得られる。

【００１８】

本発明の透明または半透明液状化粧料に（ｄ）ラウリン酸スクロースを含有することができる。（ｄ）ラウリン酸スクロースの含有量は特に限定されないが、１.０重量％以下が好ましい。この範囲において、塗布後にきしみのない十分なしっとり感が得られる。

【００１９】

本発明の透明または半透明液状化粧料は、油性成分を含有することができる。油性成分の含有量は特に限定されないが、１．０重量％以下が好ましい。この範囲において、透明または半透明の外観を呈することができる。

【００２０】

油性成分は特に限定されないが、例えばスクワラン、イソノナン酸イソトリデシル、香料等が挙げられる。これらの油性成分は、単独で使用しても良いし、２種類以上を併用して使用することもできる。

【００２１】

本発明の透明または半透明液状化粧料は、上記成分の他に、通常の透明または半透明液状化粧料に用いられる成分として、例えばノニオン界面活性剤、アニオン界面活性剤、カチオン界面活性剤、両性界面活性剤、水性成分、酸化防止剤、紫外線吸収剤、粉体、キレート剤、防腐剤、着色剤、美容成分等を、本発明の効果を損なわない範囲にて含有することができる。

【００２２】

本発明の透明または半透明液状化粧料は、化粧水、美容液等に適用可能である。尚、本発明の透明または半透明液状化粧料の剤型としては、可溶化系、分散系等の何れでも良い。

【実施例】

【００２３】

以下に実施例を挙げて本発明を具体的に説明するが、本発明の技術的範囲がこれらに限定されるものではない。なお、含有量については、他に指定のない限り重量％を表す。

【００２４】

下記の表１～４に挙げた組成を有する透明または半透明液状化粧料を調製し、１５名の専門パネルにより、使用直後の「肌なじみの良さ」、使用直後及び使用８時間後の「べたつきの無さ」、「しっとり感」の評価を行った。

【００２５】

（評価方法）

各評価項目について、１５名の専門パネルが評価し、以下の基準にて示した。

◎：１２名以上が良いと評価した。

○：８～１１名が良いと評価した。

△：４～７名が良いと評価した。

×：良いと評価した人が３名以下。

【００２６】
（調製方法）
成分１～７、または成分１～８を均一混合することにより、透明または半透明液状化粧料を得た。
【００２７】
【表１】

成分		実施例						比較例		
		1	2	3	4	5	6	1	2	3
1	精製水	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余
2	ポリオキシエチレンメチルグルコシド（20E.O.）※1	10	10	10	10	10	10	10	10	10
	DPG※2	10	10	10	10	10	10	10	10	10
3	エクトイン※3	0.003	0.005	0.03	0.3	0.5	1	0	0	0
	グリシン※4	0	0	0	0	0	0	0.5	0	0
	セリン※5	0	0	0	0	0	0	0	0.5	0
4	pH調整剤	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量
5	防腐剤	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量
6	ポリアクリル酸Na※6	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01
	ヒアルロン酸Na※7	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01
7	ラウリン酸スクロース※8	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
8	香料	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01
合計		100	100	100	100	100	100	100	100	100
肌なじみの良さ		○	◎	◎	◎	◎	○	○	○	△
べたつきの無さ（塗布直後）		◎	◎	◎	◎	○	○	△	△	◎
しっとり感（塗布直後）		○	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	○
べたつきの無さ（8時間後）		◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎
しっとり感（8時間後）		○	○	◎	◎	◎	◎	△	△	△

※１　ＧＬＵＣＡＭ（ＴＭ）Ｅ－２０　ＨＵＭＥＣＴＡＮＴ　（日本ルーブリゾール社製）
※２　ジプロピレングリコールＬｏ＋　（ダウ・ケミカル社製）
※３　ＲｏｎａＣａｒｅ　Ｅｃｔｏｉｎ　（メルク社製）
※４　グリシン　（協和発酵バイオ社製）
※５　Ｌ－セリン　（協和発酵バイオ社製）
※６　ビスコメート　ＮＰ－６００　（昭和電工社製）
※７　ピームス－ＨＹ　（テクノーブル社製）
※８　サーフホープ　ＳＥ　ＣＯＳＭＥ　Ｃ－１２１６　（三菱化学フーズ社製）
【００２８】
表１の実施例１～６に示したように、エクトインを含有した場合、評価した全ての項目において満足する結果が得られた。一方、比較例１、２に示したように、エクトイン以外のアミノ酸を含有した場合、べたつきの無さ、翌朝のしっとり感において満足する結果が得られなかった。また、比較例３に示したように、エクトインを含有しない場合、肌なじみの良さ、８時間後のしっとり感において満足する結果が得られなかった。
【００２９】

【表２】

成分		実施例						比較例				
		7	8	9	10	11	12	4	5	6	7	8
1	精製水	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余
2	ポリオキシエチレンメチルグルコシド（20E.O.）※1	8	10	30	35	0	0	0	0	0	0	0
	ポリオキシエチレンメチルグルコシド（10E.O.）※9	0	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0
	ポリオキシプロピレンメチルグルコシド※10	0	0	0	0	8	10	0	0	0	0	0
	ポリエチレングリコール※11	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0
	ソルビトール※12	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0
	グリセリン※13	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0
	DPG※2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0
3	エクトイン※3	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
4	pH調整剤	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量
5	防腐剤	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量
6	ポリアクリル酸Na※6	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01
	ヒアルロン酸Na※7	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01
7	ラウリン酸スクロース※8	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
8	香料	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01
合計		100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
肌なじみの良さ		◎	◎	◎	○	◎	○	○	△	△	○	○
べたつきの無さ（塗布直後）		◎	◎	◎	○	◎	◎	△	×	△	◎	◎
しっとり感（塗布直後）		○	◎	◎	◎	○	○	○	◎	◎	△	×
べたつきの無さ（8時間後）		◎	◎	◎	○	◎	◎	○	△	○	◎	◎
しっとり感（8時間後）		○	◎	◎	◎	○	○	△	○	◎	△	×

※９　ＧＬＵＣＡＭ（ＴＭ）Ｅ－１０　ＨＵＭＥＣＴＡＮＴ　（日本ルーブリゾール社製）

※１０　ＧＬＵＣＡＭ（ＴＭ）Ｐ－１０　ＨＵＭＥＣＴＡＮＴ　（日本ルーブリゾール社製）

※１１　ポリエチレングリコール　＃１５００　（日油社製）

※１２　ソルビット　Ｄ－７０　（三菱商事フードテック社製）

※１３　グリセリン　ＲＧ・コ・Ｐ　（日油社製）

【００３０】

表２の実施例７～１２に示したように、ポリオキシアルキレンアルキルグルコシドを含有した場合、評価した全ての項目において満足する結果が得られた。一方、比較例４～７に示したように、ポリオキシアルキレンアルキルグルコシド以外を含有した場合、肌なじみの良さや８時間後のしっとり感において満足する結果が得られなかった。

【００３１】

【表３】

成分		実施例						比較例			
		13	14	15	16	17	18	9	10	11	12
1	精製水	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余
2	ポリオキシエチレンメチルグルコシド（20E.O.）※1	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
	DPG※2	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
3	エクトイン※3	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
4	pH調整剤	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量
5	防腐剤	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量
6	ポリアクリル酸Na※6	0.003	0.005	0.01	0.3	0.5	0.8	0	0	0	0
	ヒアルロン酸Na※7	0	0	0	0	0	0	0.05	0	0	0
	キサンタンガム※14	0	0	0	0	0	0	0	0.05	0	0
	カルボキシビニルポリマー※15	0	0	0	0	0	0	0	0	0.05	0
7	ラウリン酸スクロース※8	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
8	香料	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01
合計		100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
肌なじみの良さ		◎	◎	◎	◎	○	○	◎	◎	△	◎
べたつきの無さ（塗布直後）		◎	◎	◎	◎	○	○	○	○	○	○
しっとり感（塗布直後）		○	◎	◎	◎	◎	◎	△	○	◎	△
べたつきの無さ（8時間後）		◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎
しっとり感（8時間後）		○	○	◎	◎	◎	◎	△	△	○	×

※１４　エコーガム　（ＤＳＰ五協フード＆ケミカル社製）

※１５　ＮＴＣ－ＣＡＲＢＯＭＥＲ　３８０　（ＴＩＮＣＩ社製）

【００３２】
表３の実施例１３～１８に示したように、ポリアクリル酸Ｎａを含有した場合、評価した全ての項目において満足する結果が得られた。一方、比較例９～１１に示したように、他の水溶性高分子を含有した場合、肌なじみの良さや８時間後のしっとり感において満足する結果が得られなかった。
【００３３】
【表４】

成分		実施例					
		19	20	21	22	23	24
1	精製水	残余	残余	残余	残余	残余	残余
2	ポリオキシエチレンメチルグルコシド(20E.O.)※1	10	10	10	10	10	10
	DPG※2	10	10	10	10	10	10
3	エクトイン※3	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05
4	pH調整剤	適量	適量	適量	適量	適量	適量
5	防腐剤	適量	適量	適量	適量	適量	適量
6	ポリアクリル酸Na※6	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01
	ヒアルロン酸Na※7	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01
7	ラウリン酸スクロース※8	0.5	0	0	1.3	1	0
	PEG－40水添ヒマシ油※16	0	0.5	0	0	0	0
	ミリスチン酸ポリグリセリル－10※17	0	0	0.5	0	0	0
8	香料	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01
合計		100	100	100	100	100	100
肌なじみの良さ		◎	○	○	○	◎	◎
べたつきの無さ(塗布直後)		◎	○	○	○	◎	◎
しっとり感(塗布直後)		◎	◎	◎	◎	◎	○
べたつきの無さ(8時間後)		◎	◎	○	○	◎	◎
しっとり感(8時間後)		◎	○	○	◎	◎	○

※１６　ＮＩＫＫＯＬ　ＨＣＯ－４０　（日光ケミカルズ社製）
※１７　Ｄｅｃａｇｌｙｎ　１－Ｍ　（日光ケミカルズ社製）
【００３４】
表４の実施例１９～２４に示したように、ラウリン酸スクロースを含有した場合、評価した全ての項目において特に満足する結果が得られた。
【００３５】
次に、本発明のその他の実施例を示す。実施例２５～２７のいずれにおいても、肌なじみが良く、且つべたつきの無いしっとり感が８時間後まで持続した。
【００３６】
（実施例２５：化粧水＜さっぱりタイプ＞）

（成分）	（重量％）
Ａ	
（１）精製水	残　余
（２）ポリオキシエチレンメチルグルコシド（２０Ｅ.Ｏ.）	２０．０
（３）ＤＰＧ	１０．０
（４）ポリエチレングリコール	２．０
（５）ポリアクリル酸Ｎａ	０．３
（６）エクトイン	０．３
（７）ｐＨ調整剤	適　量
Ｂ	
（８）ラウリン酸スクロース	０．２
（９）エタノール※１８	適　量
（１０）防腐剤	適　量

（１１）香料　０．０５
※１８　一般アルコール　トレーサブル９５　Ｑｂｉｘ　（日本アルコール産業社製）
【００３７】
（調製方法）
上記に示す処方の化粧水を、ＢをＡに添加することにより調製した。
【００３８】
（実施例２６：化粧水＜しっとりタイプ＞）

（成分）	（重量％）
Ａ	
（１）精製水	残　余
（２）ＢＧ※１９	７．０
（３）ジグリセリン※２０	７．０
（４）ポリオキシエチレンメチルグルコシド（２０Ｅ.Ｏ.）	１０．０
（５）ポリアクリル酸Ｎａ	０．１
（６）ヒアルロン酸Ｎａ	０．１
（７）エクトイン	０．５
（８）ｐＨ調整剤	適　量
Ｂ	
（９）ラウリン酸スクロース	０．２
（１０）エタノール	適　量
（１１）防腐剤	適　量
（１２）香料	０．０５

※１９　１．３－ブチレングリコール　（ダイセル化学工業社製）
※２０　ジグリセリン８０１（阪本薬品工業社製）
【００３９】
（調製方法）
上記に示す処方の化粧水を、ＢをＡに添加することにより調製した。
【００４０】
（実施例２７：美容液）

（成分）	（重量％）
Ａ	
（１）スクワラン※２１	０．２
（２）イソノナン酸イソトリデシル※２２	０．１
（３）ラウリン酸スクロース	０．５
（４）香料	０．０５
Ｂ	
（５）精製水	残　余
（６）ＤＰＧ	１５．０
（７）ポリオキシエチレンメチルグルコシド（２０Ｅ.Ｏ.）	１０．０
（８）グリセリン	３．０
（９）カルボキシビニルポリマー	０．１
（１０）ポリアクリル酸Ｎａ	０．１
（１１）ヒアルロン酸Ｎａ	０．１
（１２）エクトイン	０．５
（１３）ｐＨ調整剤	適　量
（１４）防腐剤	適　量

※２１　ＳＱＵＡＬＡＮＥ　（岸本特殊肝油工業社製）
※２２　ＫＡＫ　１３９　（高級アルコール工業社製）
【００４１】
（調製方法）

上記に示す処方の美容液を、ＢをＡに添加することにより調製した。

【産業上の利用可能性】

【００４２】

本発明によれば、肌なじみが良く、且つべたつきの無いしっとり感が長時間持続する透明または半透明液状化粧料を提供することができる。